

インフルエンザ（セミナー） The Lancet August 27, 2022

「僻地で世界最先端」西伊豆健育会病院早朝カンファ 2022.11 仲田和正
Influenza (Seminar)

著者 Timothy M Uyeki 他

Influenza Division, National Center for Immunization and Respiratory Diseases,
Centers for Disease Control and Prevention, Atlanta, USA

先週小生、病院でインフルエンザの予防接種を受けました。

この2、3年すっかり忘れかけていた疾患です。

The Lancet 2022年8月27日号にインフルエンザのセミナーがありました。著者はCDCの医師たちです。COVID-19を経験してインフルエンザに対して何が変わったのか興味を惹かれて読んでみました。結論から言うと、基本的なことは大した変化はありませんので全てをまとめるのはやめました。

Post COVID-19のインフルエンザで目新しかったことは次の3点です。

The Lancet 「インフルエンザ総説」要点3つ

- ① 予防策（マスク、オンライン授業、テレワーク、社会的距離、宴会自粛、旅行規制、隔離）+ワクチンの効果は明白。
- ② 高齢者、合併症のあるインフルエンザ患者はできる限り早く（2日以内）タミフル投与を。
- ③ 妊婦はインフルエンザワクチン接種を(priority target)！罹患で早産、胎児死亡、重症肺炎増加。

1. 予防策（マスク、オンライン授業、テレワーク、社会的距離、宴会自粛、旅行規制、隔離）の効果は明らか。

COVID-19流行前はマスクなどのインフルエンザ予防策（NPIs：Non-pharmaceutical interventions、非薬物的介入）のエビデンスははっきりしませんでした。しかし2020年から2021年にかけてマスク、オンライン授業、テレワーク、社会的距離、宴会自粛（indoor dining restrictions）、旅行規制、隔離によりインフルエンザも明らかに減少し、NPIsの効果は明らかとなりました。

当、西伊豆健育会病院でも2度のクラスターを経験し、PPE着用も全員が熟練しました。

しかし2021年NPIが緩和されると世界的にインフルエンザの活動が上昇しました。

NPIと予防接種は公衆衛生の重要なツールであることは今や明らかです。

2. 高齢者、合併症のあるインフルエンザ患者はできる限り早く（2日以内）タミフル投与を。

米国で2010年から2020年の間でインフルエンザによる死亡数は年間12,000から52,000人の間です。一方、日本では2010年から2020年の間でのインフルエンザによる死亡は年間161人から3575人の間です。交通事故による2021年の死者数が2636人ですから、国内のインフルエンザによる死亡は交通事故なみというところでしょうか。

一方、COVID-19の流行が始まって2022年11月1日までの米国での死者数は総計1,095,315人、日本は46,711人です。米国での死者数は世界でも群を抜いて多いのです。

小生、今までインフルエンザにタミフル (oseltamivir : neuraminidase inhibitor) 使用は消極的で必要ないくらいに思っておりました。

しかしこの総説では COVID-19 で数多くの死亡症例を経験したからか、インフルエンザでも特に高齢者や合併症を抱えている場合はタミフルをできる限り早期 (ASAP:エイソップ, as soon as possible) に投与、発症後 2 日以後でもタミフル使用に積極的です。
タミフルはインフルエンザ患者接触 1-2 日以内投与が推奨です。

タミフルは小児 RCTs (randomized control trials) でインフルエンザ発症後 2 日以内の開始で症状持続期間を 18 時間短縮、喘息のない患者での trial では 30 時間短縮、中耳炎は 34% 減少しました。
副作用は重症リスク群での嘔吐のみでした。

成人への投与では発症 36 時間以内投与で症状寛解中央値は 25 時間短縮、発症 48 時間以後の下部気道感染を 44% 減らし、どんな原因であれ入院を 63% 減らしました。
心血管疾患のある場合、インフルエンザ接種は死亡率、心血管イベントを減らします。
タミフル耐性は免疫正常者では稀です。

米国ではインフルエンザによる入院は 65 歳以上、5 歳以下、50-64 歳の順で多く、死亡率は 65 歳以上で多いとのこと。
世界的に年間 30 万人のインフルエンザ関連死があり特にサハラ以南と東南アジアが多いのです。

3. 妊婦はインフルエンザワクチン接種を (priority target) ! 罹患で早産、胎児死亡、重症肺炎増加。

妊婦はインフルエンザ罹患で早産、胎児死亡が多く、妊娠第 3 期 (13-24 週) から出産後 2 週までの罹患では重症肺炎合併が増え入院が増えます。

妊婦にインフルエンザワクチンは安全であり WHO は妊婦への接種は優先目標 (priority target) としています。COVID-19 ワクチンと併用も構いません。

妊婦は胎児への影響が怖いからとワクチンを避ける人がいますが本末転倒であり説得が必要です。

それでは The Lancet 「インフルエンザ総説」要点 3 の怒涛の反復です。

- ① 予防策 (マスク, オンライン授業, テレワーク, 社会的距離, 宴会自粛, 旅行規制, 隔離) + ワクチンの効果は明白。
- ② 高齢者, 合併症のあるインフルエンザ患者はできる限り早く (2 日以内) タミフル投与を。
- ③ 妊婦はインフルエンザワクチン接種を (priority target) ! 罹患で早産、胎児死亡、重症肺炎増加。